

◆ 不登校経験語るバンド ◆

湖国

きずなな風景

下

「どんな形でもいいが山崎雄介さん(左)、べた。のさ 見た目を気にしない。君が生きてこれたことは、この世界で何とにも大津市出身で、史 史朗さんが小学五年生よりもういんだ」

三人組バンド「JERRY BEANS」(ジェリービーンズ)一がホッブのメロディーを奏でると、客席から歓声が上がった。中には、じっと耳を澄ませて聴いている人もいる。曲の合間に、二人はそれぞれが不登校だった経験を語る。

響く歌声 苦しむ君へ

ボーカルとギターは山崎雄介さん(左)、ドラムは史朗さん(右)。ドラムのように聴こえなくなると、何もできない自分に耐え



練習する(左から)八田典之さん、山崎史朗さん、山崎雄介さん。大津市の明日都で

られなかった。次第に「二人は音楽に打ち込め、史朗さんが中学三年「学校を休めば楽」と思ったが、親の気持ちを考えると、つらくなり、友人が「やめてほしい」といってきた。八田さん、はかの生徒も来る。双子の子を弾くようになった。二人も美味いを持ち、練習に加わった。六年生になったある日、史朗さんが気力を振り絞って学校に行く。同級生は「なんで休んでるの、ずるい」。うつむをさっかかけに、音楽はつ

いてると、いじめられるのを忘れてさせていた少女が「心がしんくられるだけでなく、人にいじめられるものにならな。泣きじゃくった。一九九八年に「JERRY BEANS」として活動を開始した。八田さんは「不登校の子どものための周囲の考え方が変わることで力になりたい」と力を込める。

中学生になると、家から「音楽を聴いて」と話すと、学校の友人が集まるようになった。音楽を通して訪れる友人は増えた。史朗さんが十六歳の時、あの少女が自殺したことを知った。詳しい事はないと思うけど、「一と話をしている。ライブなどの問い合わせはジェリービーンズ」